

「今月の1枚」



ニホンジカ (*Cervus nippon*) によるリョウブ (*Clethra barvinervis*) の皮剥ぎ

近年全国的にニホンジカが増え、森林生態系に深刻な影響を与えています。ニホンジカは草や木の葉、芽、実などを食べますが、時には樹木の皮を剥いで食べます。もし幹が大きく剥皮（はくひ）されてしまうと、その樹木は枯れてしまうこともあります。写真は皮を剥がれたばかりのリョウブですが、リョウブは皮を剥がれても例外的になかなか枯れません。この写真の木は、過去に何度も剥皮されていることがわかります。シカにも好みがあり、オンツツジやタンナサワフタギなどはほとんど食べず、リョウブやヒメシャラ、シロモジなどクスノキ科の植物などは好んで剥皮することが私たちの研究から明らかになっています。

（写真：酒井敦，文章：酒井敦・奥村栄朗，2006年6月14日愛媛県八面山で撮影）

（No.143 2006.7.3 掲載）